

乳幼児健診マニュアル 第6版

福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会(編)

横田小児科医院院長

横田俊一郎

時代とともに引き継がれ成長していく 健診マニュアル

長い間待ち望まれた成育基本法が2018年末に成立し、次代の社会を担う子どもたちの心身の健やかな成育を確保するため、成育医療などを切れ目なく提供する施策を総合的に推進する基礎が出来上がった。それに伴い、乳幼児健診の機能をさらに充実させようとする機運が高まる中で『乳幼児健診マニュアル』が4年ぶりに改訂され第6版が出版された。

本書は福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会が、健診の実践的な方法について「乳幼児健診マニュアル」として1985年にまとめたのが始まりである。その後、1992年に医学書院から初版が出版され、全国の乳幼児健診にかかわる医師やスタッフに読み継がれてきている。乳幼児健診に必要な事項が過不足なく網羅されているだけでなく、最新の情報がその時々で付け加えられており、しかもコンパクトで携帯しやすく、実際に健診を行う際に本書ほど使いやすいものはない。

今回の改訂では「事故防止」「食物アレルギー」「禁煙指導」「子どもの歯の衛生」が新たな執筆者により書き換えられ、内容もより新しいものとなっている。特に「子どもの歯の衛生」ではきれいなカラー写真が加えられ、非常にわかりやすくなっていると同時に保護者への説明にも利用できる。

また刻々と変化する疾病の治療法や予防接種体制についても、新しい情報が取り入れられている。日本小児科学会新生児委員会が推奨する母乳栄養児へのビタミンK投与を生後3か月まで週1回続ける方法、膈ヘルニアの圧迫療法、母斑とレーザー治療、子どもの便秘の治療など、最近広まってきている新しい治療法

が随所に盛り込まれているのも心強い。さらに2019年から始まった成人男子に対する風疹予防の追加的対策についても記載が加えられた。

日本小児科学会とその関連団体からなる日本小児医療保健協議会合同委員会内の健康診査委員会では、乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会を定期的に開催するようになった。評者が小児科医になりたての約40年前にはそのような研修会はまったくなく、ほぼ自己流で乳幼児健診を行っていた。子どもの病気を診ることばかりに集中していた時代と比べて、現在は隔世の感があるが、福岡地区ではその古い時代から健診に真剣に取り組んできており、その努力と経験の結集が本書となっている。

本書の生みの親の一人であり、可愛い赤ちゃんのイラストをお描きになった松本壽通先生が昨年ご逝去された。身体の発育だけでなく、子どもの心の健康の重要性を古い時代から強調され、私たち外来小児科医の良き指導者であり、その優しい顔を忘れることはできない。松本先生の願いは今後も本書とともに引き継がれていくことと思う。

乳幼児健診にかかわるのは小児科医専門医だけではない。小児のプライマリケアを担う全ての医師、健診にかかわっている全ての医療スタッフに本書を利用していただくことを願っている。



●B5/頁168/2019年
定価：本体3,200円＋税
[ISBN978-4-260-03935-2]
医学書院 刊